2021 年 10 月 18 日

QUAD と AUKUS は ASEAN を弱体化させる

Asia Times

The Quad and AUKUS will weaken ASEAN

The new big-power security architecture exacerbates the divisions within ASEAN regarding the US-China struggle for dominance

By MARK VALENCIA

SEPTEMBER 27, 2021

https://asiatimes.com/2021/09/the-quad-and-aukus-will-weaken-asean/

QUAD と AUKUS は ASEAN を弱体化させる

大国の新たな軍事計画は、米中の抗争を激化させ、ASEAN を分裂させる

ジョコ・ウィドド大統領はジャーナリストに、「中国の侵入を懸念しているが、

だからといって米豪の原子力潜水艦が自由に航行することを容認しない」と語る。

アジアタイムス： 1999 年に香港を拠点に創設された日刊のオンライン新聞。この記事はインドネシア政府の論調を要領よく紹介している。

はじめに

近年、東南アジア諸国連合は、地域の安全保障問題においてその団結と「中立性」を維持するために奮闘している。（著者は“centrality”という言葉を使っているが、一応中立性と訳しておく）

その団結は、最近の地域の支配をめぐる米中の争いによって打ち砕かれつつある。さらに悪いことに、ミャンマーと南シナ海の危機という二つの重大な安全保障問題を調整できなかったため、その信頼と評判は揺らいでいる。

そこへ持ってきて、一方の大国において QUAD と AUKUS という 2 つの保安システムが発足し、東南アジア地域をカバーしようとしている。それは ASEAN が志向してきた、安全保障問題における「中立性」を妨げ、団結を弱体化させている。

QUAD（日米豪印戦略対話）をめぐる経過

QUAD は、オーストラリア、インド、日本、米国の安全保障フォーラムである。それは「自由で開かれたインド太平洋」を維持することを目的としている。

QUAD の指導者たちは先週ワシントンで直接会い、その意義、目標を再確認した。彼らは「国連海洋法条約」（UNCLOS）その他に反映された国際法の遵守を主張している。そしてとりわけ東シナ海と南シナ海において、「海事規則に基づく秩序」への挑戦（要するに中国の海洋進出）に対処するのだ！、としている。

この声明がほのめかしているのは、「南シナ海での中国の進出が国際法からの逸脱で、非合法だ」と言うことだ。そして彼らがそう捉えているということである。ただ皮肉なことに、言い出しっぺである米国は、大国の中でただひとり UNCLOS を批准していない。

そこで米国は、反中国の集団安保グループを形成することを望んだ。インド、それに日本と東南アジアの一部にはグループ化に対する留保があるけれども、計画は中国包囲の方向に着々と推し進められている。

QUAD 会議はその声明で、「ASEAN の統一と中立性への強力な支持を再確認する」と宣言した。しかしおそらく、それはおためごかしにすぎない。米国が主導する集団安保の効果はそれとは逆のものだ。

インドネシアやマレーシアなど、いくつかの ASEAN 諸国にはそれが見えている。すなわち、「米国は ASEAN の中立性を支持するのではなく、中国を縛り付け、封じ込めるための手段として QUAD を使用したいだけだ」と。

もし発効すれば、QUAD は特に南シナ海において、地域の安全管理の中心的機構となるだろう。しかしそれは、地域の安全保障問題の管理には効果がない。そもそも彼らの目的はそのようなものではないからだ。

クワッド参加国は ASEAN の願望に沿うようなリップサービスを展開するが、ASEAN への信頼はすでに失われている。なぜなら、その4つのメンバー国が西洋流の民主主義的価値観から、ますます逸脱しているからだ。

AUKUS をめぐる経過

AUKUS は、米国と英国が、オーストラリアに原子力潜水艦と水中ドローン技術を供給するという合意である。その潜水艦の主な用途は、南シナ海の勢力均衡を維持することである。

協定はまた、「オーストラリア北部への米国の戦闘機と爆撃機のローテーション配備」を要求している。そして将来的に「オーストラリア西岸のパースにも潜水艦のローテーション基地を獲得」する。つまり米国は南シナ海での中国の監視と抑止のために、オーストラリアを基地として使用することになったのである。

元インドネシア外相のマーティ・ナタレガワは言う。

AUKUS は、これまで議論してきた QUAD と同様です。それは複雑で急速に進化する地政学的環境に「ボカし操作」を加え、それに従わない場合のコストを ASEAN に示しています。

タスマニア大学の JamesChin はこう言う。

AUKUS は、「ASEAN 加盟国の意見はもはや重要性を持たない」という戦略思考に立っています。この地域での運営方法と戦略は、これからはスーパーパワーが決めるものなのです。

新しい大国の安全保障設計はまた、ASEAN 内の諸部門を悪化させる。

米中が東南アジア地域の支配のため闘うようになると、ワシントンの強力な対決政策と行動は、中国側の対抗行動を生み出した。軍事的示威の危険なスパイラルが形成されるようになった。それは明らかに多くの ASEAN 加盟国を緊張させている。

進路に悩む ASEAN 諸国

彼らは、大国間の対立が巻き添え被害をもたらす危険を恐れている。いまや彼らの根本的な関心事は、米中紛争に巻き込まれ、どちらか一方を選択せざるを得なくなることだ。

さまざまなレトリックにもかかわらず、すでに明らかに一方を選択している国もある。カンボジアとラオスはしっかりと中国の陣営に入った。シンガポールとフィリピンは米国の庇護のもとにあるようだが、ワシントンが望むほど確固としたものではない。

何れにせよ、明らかに ASEAN の亀裂は外部勢力の圧力の下で拡大している。現在の覇者である米国をあえて直接、かつ公に批判できる ASEAN 諸国はほとんどない。そのことが AUKUS への懸念をさらに深刻なものにする。

マレーシアのイスマイル・サブリ・ヤコブ首相は、AUKUS について次のように述べている。
AUKUS は、他の諸国（中国のこと）がこの地域、特に南シナ海で、より攻撃的な行動を取るように仕向けることになるでしょう。
マレーシアは、ASEAN 創設国が 1971 年に合意したように、この地域が引き続き「平和、自由、中立の地域」であるため、引き続き努力します。
今の状況のもとでは、この原則（1971 年合意）に対し支持を保留する国もあるかもしれませんが、その人たちにもこの基本原則はいくらかの圧力となるでしょう。
AUKUS の発表に反応して、インドネシアは「この地域での軍拡競争と戦力投入が続けられるのではないか」と懸念を表明した。そしてオーストラリアに UNCLOS を遵守するよう求めた。

合意を心配するのには十分な理由がある。それは、AUKUS の実施によってオーストラリアと米国の原子力潜水艦、そして水中ドローンがこの水域で展開可能となるからだ。

（南シナ海において水面上が中国の支配域となり、水面下が米豪の原潜の支配下におかれるなら、そこにはそら恐ろしい世界が出現することになる　訳者）

南シナ海でそのような任務のためにインドネシアの水域が使用されるのであれば、それはジャカルタ政府の注意深く構築された「動的平衡外交」を弱体化させるだろう。

それに加えて、水上・水中での軍艦の使用は、歴史的に非常に敏感な問題をはらんでいる。UNCLOS 条項の解釈で、何が適法で何が違反を構成するのかについても、関係各国は独自の見解を持っている。

インドネシアは、米豪連合対中国の「起こりうる軍事紛争」の地理的な真ん中にいることを決して望まない。また潜水艦とドローンの通過を許可するなら、インドネシア国内で大規模な抗議を引き起こす可能性がある。それは翻ってオーストラリアや米国との関係を乱す可能性さえある。

他の ASEAN 加盟国は異なる見解を持っています。フィリピンのテオドロ・ロペシン外相が AUKUS を歓迎しました。

ASEAN 崩壊の可能性

この地域では、海外の同盟国が軍事能力を強化することで、バランスを不安定にするのであってはならない。逆に諸国間のバランスを回復させ、維持する必要がある。

インドネシアとマレーシアは、最近の事態について組織として共同声明を発表することを求めている。しかしそれ以外の ASEAN 諸国はこの点で必ずしも明確ではない。

たとえばシンガポールは、「AUKUS は地域の平和と安定に建設的に貢献し、地域の建築を補完するだろう」と語るのみで ASEAN の主体性擁護の必要性については曖昧である。

おそらく、彼らは共通点を見つけることができないだろう。一部の諸国は米国の主導性を認める「現実型戦略」を唱える。そしてワシントンが「中国の脅威」に対抗するのを積極的に認め、これを支援しようと考えている。

QUAD 諸国と ASEAN 諸国

QUAD 諸国は、「中国の台頭と脅威から東南アジアを守ろうとしているのだ」と主張している。

それは逆だ。米国とその同盟国は、ASEAN を守るのではなく、それを中国に対する防波堤および緩衝材として使用したいと考えているにすぎない。

しかし、ASEAN は彼らが望む通りの方向に協力したことはない。そこで米国とその同盟国は、ASEAN の頭越しにこれらの合意を形成するために、個別の交渉を強めている。その結果、ASEAN は東南アジアの政治的統合にとって付随的な政治的存在と成り果てた。それは弱体化して分裂している。

それが意図した結果だったのか、疑問に思う人もいるかもしれない。

しかし現実には、米国はフィリピンやシンガポールなどの国々を切り離して、中国に対する軍事封じ込め戦略に参加させようとしている。まだ現実のものではないが、ベトナムも同じようなことを望んでいる。（それは決して現実のものとならないだろう　訳者）

それは ASEAN が分断されているためだ。

ASEAN の意図が何であれ、QUAD 支持に回るか、それとも ASEAN もろとも弱体化するかの選択が迫っている。いまのところ実際の効果は後者である。

ASEAN が弱体化して分裂すれば、それは米国を軸とする同盟ばかりか、戦略的競争相手である中国にも利益をもたらす。

これらの動きは、この地域の地政学的構造プレートの動きを加速させている。それは激動の中で苦闘する諸国家に、存在にさえ関わるような新たな重大な課題を提示することになるであろう。